

令和7年度 校内研究のまとめ

令和6年度～9年度実践の2年目

全体テーマ『子どもの「わかる」
「できる」 「伝わる」 を伸ばす
ICTの活用』



小・中学部（肢体部門） 2年目実践報告

Time Table ～流れ～

- ▶ 研究の背景
- ▶ 実践したこと
- ▶ 今後の課題について

研究の背景

(Why①：現状の課題)

- ▶ 転任者や昨年他学部に所属していた先生との共有
(高等部はChromebook)
- ▶ 新しいアプリの等の導入をして、
活動・表現の幅を広げていくこと

研究目的と位置づけ

(Why②) : 2年目のねらい)

▶ 【学部全体テーマ】

「みんなで触ってみよう・チャレンジしてみよう」

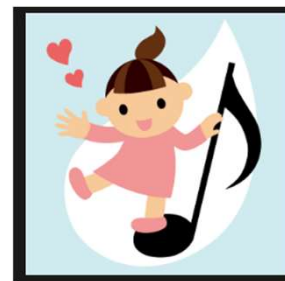
▶ 【2年目のねらい】

児童・生徒や学年の実態に応じた
情報機器の活用

実践全体の流れ

(How①：年間の構造)

- ▶ 昨年度までの実践の共有
- ▶ 学年での検討
- ▶ 校内学習会・iPad新しいアプリの導入



- ▶ 学年での研究・事例のまとめ

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

実践例① ゆめ水族館



授業（場面） ←	集団課題（全児童対象） ←
実態・困り感 ←	iPadには興味は持っているが、授業ではiPadの画面を見るだけということが多い。iPadに興味を持たせ児童に活用させ、自発的な動きをひきだしていきたい。 ←
工夫・活用方法 ←	<p>（活用したアプリ・端末）「花火」 ←</p> <p>ゆめ水族館 セイコーエプソン株 ←</p> <p>天井に夜空が映し出され、iPadに触れることでオリジナルな花火が作成され音とともに天井上に作成された花火の映像が広がる。iPad画面どこを触ってもよい。触る場所や操作で花火が変化するので、興味関心を引き出しやすくなる ←</p> <p>←</p>
現在の様子 ←	<p>単元当初は、天井に広がる夜空に花火が打ちあがる映像を眺め、興味を示しているという様子が見られたが、回を重ねていくうちに、自分のiPad ←</p> <p>を触ると音がする、花火の映像が映るとということが理解し始めてきているように思う。ただ画面を触る画面上を見てしまうので、iPadを触りながら天井の花火を眺めることはできていない児童が多い。 ←</p>
今後の展開 ←	<p>今年度は他学校からの2か月ほどのショートのレンタルで、2か月ほどしか活用できなかった。いろいろなアプリを使って、単元づくりなどで活用できそうである。今回の「花火」に関してはトライが ←</p> <p>であり、ipad操作を深めるといふ段階には至っていない。各児童の実態を探り、ipad操作の際の向きや姿勢、画面をタッチしやすくするための工夫などを検討していくことが必要である。 ←</p> <p>←</p>

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

実践例② ルーレット

12:10 1月8日(木)



かたつむり

86%



結果:
僕のこと



授業（場面）↔	朝の会・帰りの会・集団活動↔
実態・困り感↔	何かをクラスで決めるというときに、自分の思いを伝えることができる児童の意見が優先されることが多い。われわれ教員もつい意見を出してくれた児童の思いを優先しがちである。思いを伝えることは大変すばらしいが、本人も自分が意見を出せばそれが通ると思っている傾向があり、自分の思いが通じないとなるとなかなか納得できず、気持ちを切り替えることが難しいことがある。しかしクラスにはいろいろな児童がいて、それぞれが思いを持っており、自分と同じようにその思いをかなえたいという願いがある。そのような友達の思いを気付かせ、その児童の思いを受け入れるということを理解させていきたい。↔
工夫・活用方法↔	（活用したアプリ・端末）今回は「今月の歌」を決定する際に、各自お気に入りの歌を考え、発表する。決定する場面で、「ルーレット」というアプリを使う。本人がアプリのボタンを押すことで、自分の選択肢が選ばれなくても、自分が決めたという達成感を考慮する。人数分の1の確率でルーレットの矢印が示したところが決定となるので平等感もある。↔
現在の様子↔	何回か自分の希望した曲が選ばれなかったが、以前よりは納得して次の月の機会を待つことができるようになってきている。選ばれなくても、次回に希望が持てるようになったこと、次回に向けてのおすすめの歌を選曲することも本人の楽しみになっている。↔
今後の展開↔	○今回はルーレットというアプリをつかったが、他にもあみだくじなど他のアプリも活用していきたい。最終的にはアプリを使わなくても今月は自分の曲が選曲されたので、来月は友達に譲るといったような気持ちが、自発的に出てくるとよいと思っている。今回は「今月の歌」という場面で使ったが、他の場面でも応用できればよいと考えている。↔

授業(支援)の詳細 (How②) : 具体的取り組み)

実践例③ 時間割



授業（場面） ←	朝の会・帰りの会 ←
実態・困り感 ←	<p>前年度は <u>DropTap</u> で作った、朝の会、帰りの会の進行のボタンをタッチしながら会の進行を進めている。一人の児童は自力で対応できていたが、他の児童は細長いボタンを狙って触れるのが難しく、教員と一緒に触って対応することが多かった。画面に触れると音声が出るがということに気づいており、<u>ipad</u> に興味は示している。触れようと手を伸ばす様子も見られる児童もいる。 ←</p>
工夫・活用方法 ←	<p>（活用したアプリ・端末） <u>DropTap</u> と <u>DropTalk</u> ←</p> <p><u>DropTap</u> では今まで通り全体の流れが見える画面とし、<u>DropTalk</u> では一つの流れを1つのボタンとして、画面上にボタンの面積を広げ、接触部分を大きくする工夫をした。 ←</p>
現在の様子 ←	<p><u>Drop Talk</u> を 1 画面 1 つボタンは接触面積が大きいいため、児童が自発的に腕を伸ばしたり、手を動かしたりして画面に触れようとする動きが多くみられるようになった。さらに1つのボタン、例えば挨拶で、別にあいさつを選択できる場面をつくり、細分化した。はじめます、おわりますを児童のサイン写真でボタン化して、個別に対応したアプリを使っている。 ←</p>
今後の展開 ←	<p>現代段階では <u>DropTap</u> と <u>DropTalk</u> を併用してアプリをその都度開きながら対応している。個別の児童の実態に応じて、朝の会の流れに順じてスムーズにアプリが起動して作動していけることが望ましい。 ←</p>

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

実践例③



「こわい」「びっくりした」から選んでいます。←

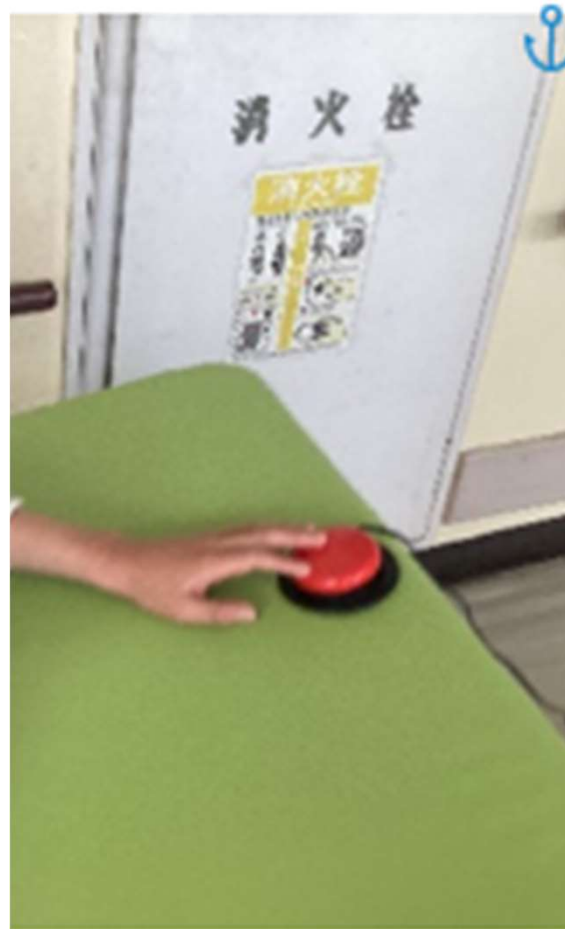


iPad2台を用いています。タッチしやすく、視線でも選んだものがどちらか伝わりやすいです。←

授業（場面） ←	課題別学習（個別） ←	
実態・困り感 ←	不安な気持ちの時に、「怒る」「泣く」ことで表現することが多い。感情の表現方法が分からず、理解してもらえないことでさらに不安感が増している。iPad を操作する際、手を思った方向に動かすことが難しく、イラストを選択する際は視線や「うん」と声を出すことで選んでいる。 ←	
工夫・活用方法 ←	（活用したアプリ・端末） Drops ← 「ドキドキする」「大丈夫」「怖い」「びっくりした」などのカードを見せ、実際にあった出来事を振り返りながら言葉を学習した。また、気持ちを想起しやすい給食について選ぶ活動を行い定着を図った。操作の工夫としてiPad を2 台用いて選択肢を一つずつ表示するようにしたところ、視線を向けて選ぶ様子が見られた。 ←	
現在の様子 ←	メニューを選び、「おいしかった」「まあまあ」などのカードを選んで二語文を作成し、その音声記録を聞く活動を行った。課題の時間になると、やりたい意思を示し活動を楽しみにする様子が見られた。 ← 身体に力が入った際に気持ちを尋ねると「びっくりした」を選択した。感情と言葉が結びついている場面が増えているように感じた。 ←	
今後の展開 ←	Drops で得た言葉をカードにして携帯し、伝えたい場面ですぐに伝えられるようになるとうい。また引き続き Drops を用いて、気持ちを表したり、今日の出来事を文章にして発表したりすることで伝わる喜びと自信につなげていきたい。担当教員だけでなく、近くにいる教員誰でもが活用しやすいよう項目を整理し、共通理解を図っていくことも必要である。 ←	

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

実践例④



学部・学年	中1-3
授業(場面)	日常生活の指導
実態・困り感	<p>人との関わりが好きで、昨年度から <u>ipad</u> を活用し、コミュニケーションを図ってきた。今年度、担任の入れ替わりがある中でも、本人の意思表示ができるような取り組みを継続できないかを模索している。</p> <p>昼食後の昼休みに、本人の好きな活動に取り組み、余暇の幅を広げたいと考えた。</p>
工夫・活用方法	<p>(活用したアプリ・端末)</p> <p>ドロップタップで、2択の中から好きな活動を選ぶ。</p> <p>→本人の可動域の兼ね合いで、選択する画像の大きさや数を工夫していけるか模索中。</p>
現在の様子	<p>現在は、昼食後、本人が教員に呼びかけることで、<u>ipad</u> を提示し、ドロップタップの画面から好きな活動を選択している。本人の可動域の兼ね合い、操作がしやすい角度を工夫している。</p> <p>本人に提示し、好きな活動に取り組んでいくことの流れを理解して、取り組んでいくことができている。</p>
今後の展開	<p>今後、好きな活動の種類を増やししながら、画面の位置を<u>変えたり</u>、4画面など、選択する画像の数を増やしていきたい。本人の可動域の課題等があるため、様子を丁寧に見ていきながら、少しずつステップアップを行っていきたい。</p>

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

実践例⑤



学部・学年	中学部 2・3年
授業（場面）	朝の会（給食の発表）
実態・困り感	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会の「給食発表」の際、当日の給食メニューを生徒が教員と一緒に音声発表していた。音声のみの発表なので、生徒には正確に伝わりづらい。
工夫・活用方法	<p>（活用したアプリ・端末）</p> <p>グーグルクラスルーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 係の生徒が映像や画像を確認して、皆に提示する。画像をスライドすることで、給食の具材や調理の様子を視覚的に理解できるようにした。 タップするとAI自動音声でメニューを読み上げる機能も利用している。
<p>現在の様子</p> <p>←</p> <p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係の仕事としてアプリを使って発表することが定着してきている。画像や映像がある時は、提示された生徒も興味をもって視聴している。 まだ当日の給食メニュー写真がないので、今年度の実績を生かして来年度は提示できるようにしたい。（栄養教諭と確認）

成果（Before → After）

○学部での情報交換を通じて、活用の幅を広げた

○新しいアプリの検討を学年を中心に、検討することができ、導入できた！

課題と次年度に向けて (Next Step)

- ▶ 学部にも初めてくる教員への情報共有
- ▶ 新しいアプリの更なる活用
- ▶ 実践例の蓄積とカテゴリー分けを進めていく

高等部 A（肢体部門） 2 年目実践報告

2年目実践テーマ

「Chromebookを 活用してみて」



実践全体の流れ (年間の構造)

共有（昨年の確認） ・ ・ 4月～5月

実践例の検討・活用 ・ ・ 6月～11月

まとめ・報告 ・ ・ 12月～1月

研究の背景 (現状の課題とねらい)

YouTube



ゆくも!

(実態)

- ・映像やスライド等に注目できる生徒は多い。
- ・視聴できる状態まで教員が準備する。(個々の生徒が、端末を操作し準備をすることは難しい)

今年度は、Chromebook端末を活用して、操作等ができる数少ない生徒の中から

- ・キー操作ができる生徒(1名)
- ・画面タッチができる生徒(1名)

を選出し、2人の生徒の変容の様子と、高A全体の端末活用における課題等について確認検討していくことをねらいとした。

(高A全体として、使ってきたアプリ類)

成果（Before → After）

Classroomを活用したタイピング練習



Classroomアプリ



SCHOOL TYPINGアプリ
（学校教育情報処理研究会）

<https://seipsg.main.jp/schooltyping/>

（活用前）

- ・スタート時から中学の時から使用していたので、キーボード操作については慣れていた模様。

（活用後）

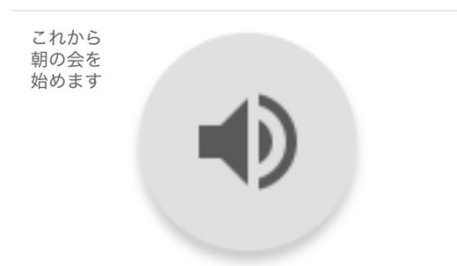
- ・最近、自身のタイピングに課題があることに気づき、現在はそれを中心に行なっているとのこと。

成果（Before → After）

ゆくもテキスト音声サービスとGoogleスライドを活用した
タッチペンでの画面タップ練習



テキスト発話サービスアプリ
(株式会社アクエスト)
<https://www.yukumo.net/#/>



Googleスライドアプリ

（活用前）

・手で画面を叩いたり、タッチペンを渡すと自身でむやみにタップや突いたりしていた。（変化が見られず、端末を手で叩いたり怒ったりする場面も見られた。）

（活用後・ ・（教員の支援を受けながら））

・画面をタップをすると画面が変わるということの理解ができた模様。

・繰り返しの取り組みから、力を抜きゆっくりと画面に向かってタッチペンを伸ばすようになった。（落ち着いてタップの練習を受け入れることができるようになった。）

課題と次年度に向けて (Next Step)



キーボード操作ができる生徒が少ない。



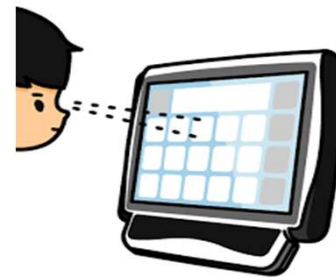
1回1回のパスワード入力が煩わしい。



操作を楽しめるアプリが少ない。



Chromebook端末画面での認識が低い？



教員のICT機器やアプリ活用の経験の差やスキル不足。

まとめ (Key Message)

- ▶ 主とした生徒の活用方法は、補助ツール（ス
イッチ等）を活用し、スライドや動画等のタッ
チ操作を含めた鑑賞が中心
- ▶ 内部入学生のiPad継続使用も検討すべき
- ▶ 外部入学生に対するICT活用の実態把握とB部門
への参加も加味した内容検討
- ▶ 個々に教員のICTスキルの再確認（適切なICT機
器の提供と活用方法の習得を図る）

**Chromebookに特化した活用実践を考えていくという
方向性については、いかがなものなのであるだろうか？**

A vertical decorative bar on the left side of the page, featuring a gradient from light blue at the top to light orange at the bottom.

高等部B(知的部門) 2年目実践報告

A vertical bar on the left side of the slide with a gradient from light blue at the top to light orange at the bottom.

テーマ

みつける・つたえる・つながる

～ICTで紡ぐ3年間～



高B学部研究の概要

各学年の実践報告

成果と課題

Time Table

---流れ---

次年度に向けて

まとめ



高B学部研究の概要

各学年の実践報告

成果と課題

Time Table

---流れ---

次年度に向けて

まとめ

研究の背景①

【生徒の実態から】

- ・ 自分の気持ちや考えを言葉にすることに苦手意識がある
- ・ 書字への苦手意識から、表現そのものを避けがち
- ・ 「何を話せばよいか分からない」状態に陥りやすい

その結果

- ⇒ 自己理解が浅いまま学校生活が進んでしまう
- ⇒ 自分の成長や良さを実感する機会が少ない



▶ 課題

生徒が「自分を見つめ、伝える」経験が十分に確保されていない

研究の背景②

【表現手段の偏り】

- ・ 従来の学習では・・・
「書く」「話す」が中心



書字や口頭表現が苦手な生徒ほど、評価されにくい構造

一方で、生徒は

- ・ 写真を撮る（タブレット端末やスマートフォン等）
- ・ タブレット端末を操作する（タイピング、ネット検索）

ICTが身近にある時代を生きている



▶ 課題

生徒の強みを生かした「多様な表出手段」が十分に活用されていなかった。

研究の背景③

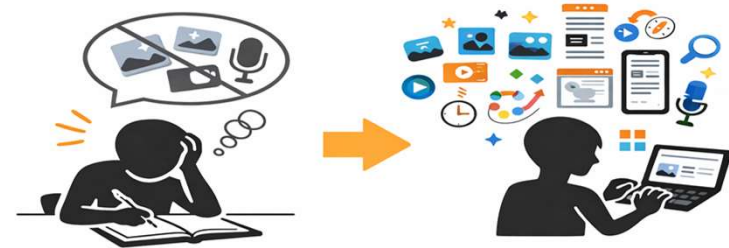
【ICT機器の整備と可能性】

・ Chromebook等のICT環境が整い、Googleアプリケーション（クラスルーム、ドキュメント、スライド、フォーム等）が日常的に使用可能となった。

・ ICTは
タイピング入力
音声入力
写真、イラスト、動画挿入
レイアウト、色
など、書字以外の表現を可能にする

▶気づき

ICTを使うことで、「表現できない」から「表現できる」へ
の転換が起こっている



研究目的と位置づけ

○学部研究のこれまでの歩み

【1年目】：ICTを「使ってみる」

- ・ 教員がICT機器、Googleアプリに触れる
- ・ 授業での活用に慣れる



【2年目】：ICTを「生かす」

- ・ 生徒の自己理解、自己表現にどのような変化がみられるかを確認
- ・ ICT活用が生徒の表現に与える影響を捉える
- ・ 活動の成果と課題を整理し、次年度につなげる



研究目的と位置づけ

【2年目の研究目的】

ICTを活用した表現活動を通して、
生徒の自己理解、自己表現の変容を明らかにする。

【2年目で重視した点】

- ・ 生徒は...

自分のことをどのように捉えるようになったか

何を、どのように伝えようとするようになったか

- ・ 表現の変化は...

言葉の量や質 理由やエピソードの具体化

発表への姿勢

にどのように表れているか





高B学部研究の概要

各学年の実践報告

成果と課題

Time Table

---流れ---

次年度に向けて

まとめ

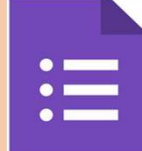
1年生の実践内容

『わたしを伝えるプロジェクト』

教科名

自立

アプリケーション



対象

赤/青/緑

実態別グループ

活動の流れ

- 1 ふきだしくんでアイデア出し
- 2 Googleドキュメントで文章化
- 3 Googleスライドで視覚化
- 4 小グループ、全体で発表
- 5 Googleフォームでふりかえり

1 ふきだしくんでアイデア出し

私のどんな
ことを紹介
したい？

紹介したいこと
を記入

名前

生き物 あ	趣味 楓さん	得意なこと 楓さん	好きなスポーツ 楓さん
ゲームでオール あ	好きな食べ物 楓さん	枯の種、きゅう ジャスミン茶 とけぼとり ず上機嫌 楓さん	自分の好きを絵 にすべて詰め込む こと 楓さん
好きなゲーム 山田	好きな地下鉄 山田	ゲームとクズキ ャラが無様に死 ぬシーンが好き	嫌いなキャラク ター
自分の好みの形 の車両が好き(角 ばった形で角目 ライト) あ	好きな駅 山田	鉄道関係	

食べ物

ゲーム

鉄道関係

【活動のねらい】

- ・自由に発想する
- ・アイデアを共有しあうことで考えの幅を広げる

2 Google ドキュメントで文章化

わたしを伝えるプロジェクト（自己紹介シート）

___ 1 組 名前 ___

紹介したい
こと

1. 紹介したいことは？

私が好きなのは、“旅行とドライブ”が大好きです。

具体的に

2. それは具体的にどんなこと？ お出かけでいろんな景色や道路を見ることです。地図を見て実際に行くのも楽しみの1つです。

エピソード

3. いつから好き？ 物心がついた頃から旅行のときはずっと道路ばかり見ていました。うちは移動手段が車なので、助手席から景色と道路をずっと見ている、昔からお出かけが好きでした。当然ですが、深夜の移動中も、寝ないで道路を見ている。(景色が見えないよ？眠くないの？大丈夫？)

【活動のねらい】

- ・考えを順序立てて整理する
- ・感情や理由を言葉で表現する

3 Googleスライドで視覚化

見やすいように
文字色や
フォントを調整

どんなところが好き？

景色を見ているときのワクワク感です。
風景や天気の様子や移り変わりを
見るのが好きです。



写真やイラストを
挿入して
わかりやすく表現

【活動のねらい】

- ・伝えたい内容を構成し、
わかりやすく表現する
- ・写真、色、レイアウトなど工夫し、「相手に伝わる表現」を意識する

つよ 僕の強み(よいところ)

- ・眠気が収まるとちょっと覚醒する
(覚醒するとパワーアップ)
- ・最後までやり研ぐ

よわ にながて 僕の弱み(苦手なところ)

- ・疲れが溜まってだらっとしちゃう
- ・ストレスが溜まりやすい
- ・嫌なことを思い出してメンタル不安定になる

くたいてき 具体的なエピソード

生徒会の応援演説で友達に頼まれた仕事を最後までやり遂げることができた。人前で話すことが苦手だったけど演説することができた。

これからの僕

ストレスが溜まったときに上手く発散する方法を知って、切り替えを速くし、イライラすることなく、毎日過ごしていきたいです。

【生徒の変容】

- ・タイピング入力により表現のハードルが下がり、自分の考えや気持ちをより多く表出する姿が見られた。
- ・発言が増え、**授業への参加意欲が高まった。**

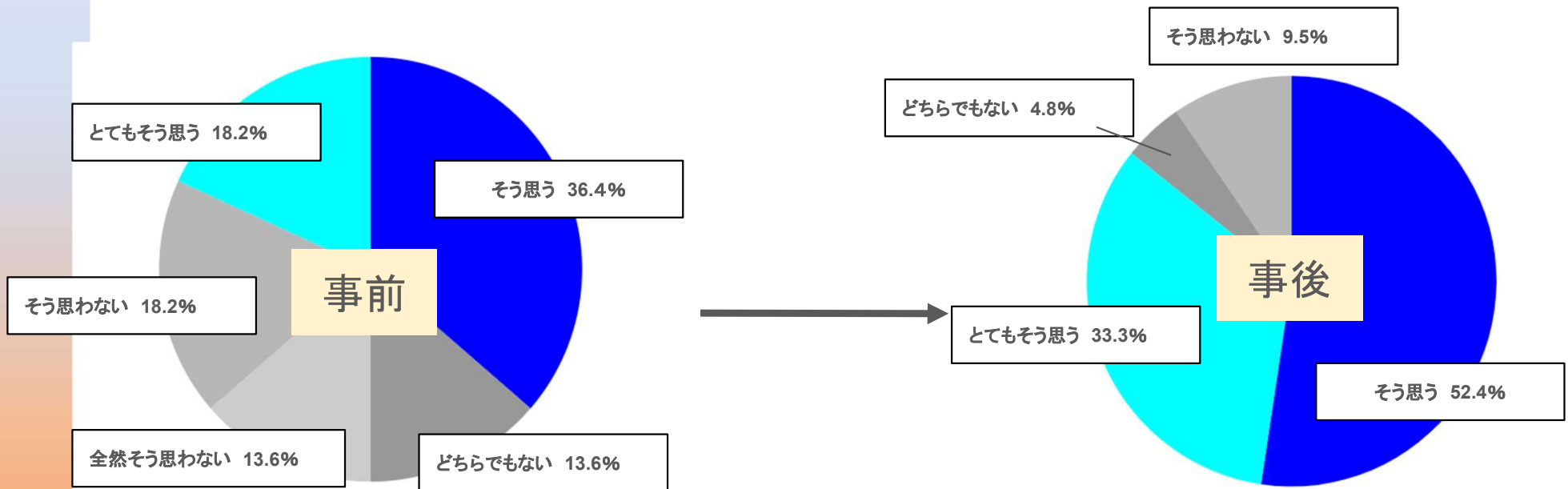
A vertical bar on the left side of the slide with a gradient from light blue at the top to orange at the bottom, with a small white circle near the top.

生徒の変容

自己理解 と 自己表現

①自己理解の変化【アンケート結果より 回答数22名】

周りの人とちがう「自分らしさ」を大切にできる

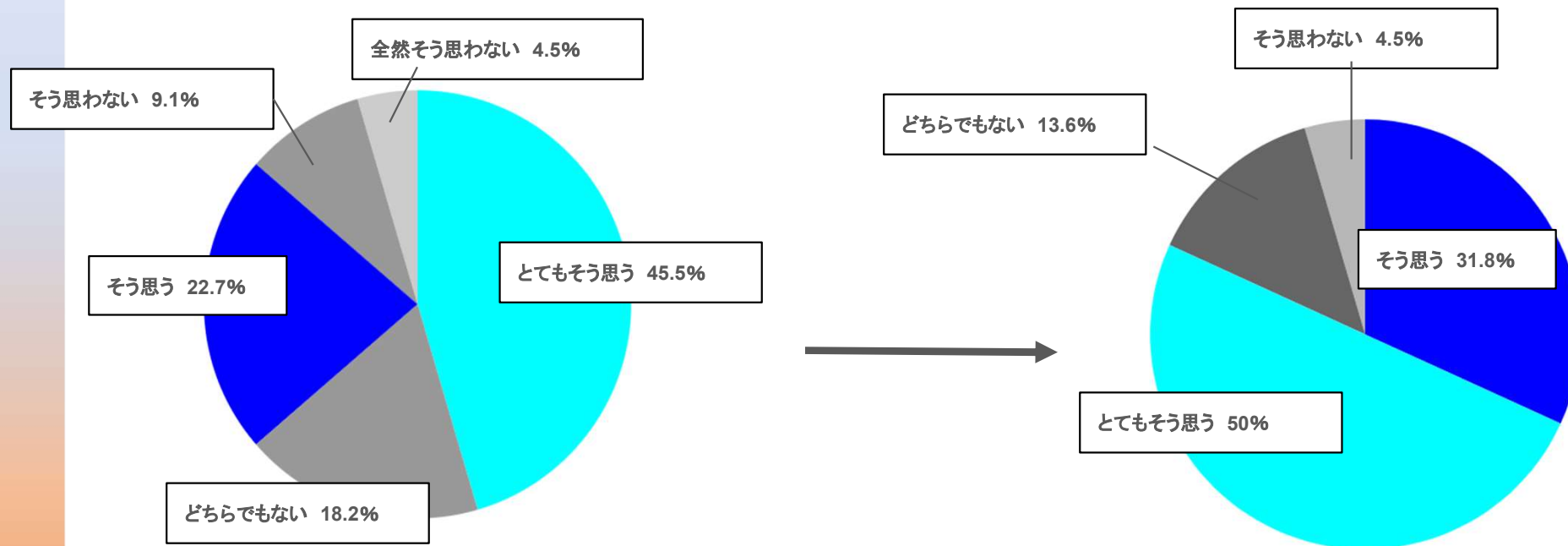


「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合が
54.6% → 85.7% に上昇

ICTを通して、自分のペースで自分を見つめる時間が確保され、前向きな自己理解につながった

②自己表現の変化

人に自分の好きなことを話すのが楽しい



「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合が
68.2% → 81.8% に上昇

ICTの活用が話す前に考えを整理する「安心材料」として機能し、話すことへの楽しさが高まった。

③教員の見取り(授業担当者への聞き取り)抜粋

Q 今回の『私を伝えるプロジェクト』を通して生徒にどんな変容が見られましたか？



質問されると考えをまとめるまでに時間がかかり、発言がむずかしかった生徒が、ICTを活用することで、自分の考えや気持ちを文字やイラスト等で整理することができるようになって、焦らずに自分のペースで活動に取り組む姿が見られるようになりました。

発表が苦手な生徒も作成したスライドが安心材料となり、堂々と発表する姿が多く見られました。
また、大勢の場での発表を通して「少し自信がついた」と発言している生徒もいました。



● 2年生の実践内容

『わたしたちの学校生活ガイド』
～新入生に伝えたいわたしたちのリアルな毎日～

教科名

職業・情報

アプリケーション



対象

赤/青/黄
実態別グループ

各グループのテーマ

赤グループ「座間支援学校の1日紹介」

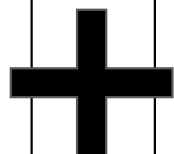
青グループ「行事紹介」「給食紹介」

黄グループ「校内紹介」

赤グループ「座間支援学校の1日紹介」

活動の流れ

- 事前アンケート
 - 事後アンケート
- 【Googleフォーム】



- 1,構成を考える【Canvaホワイトボード】
- 2,撮影【Googleカメラ】
- 3,動画編集【Canvaプレゼンテーション】
- 4,完成した動画を全体で披露



1 Canvaホワイトボードで構成を考える（グループ活動）

「朝トレ」場面の構想

1 【グループで話し合い】 どのような写真や動画を入れたいですか？意見を出し合おう！
（例）〇〇を通る様子 笑い合っている様子 など

走っているようす
にオレも一票だよ

1 フラワーをやる。
2 グラウンド、中庭で走る。
3 ストレッチをやる

ラジオ体操
バランスとり

生徒の姿

- ・ 発表や発言が苦手な生徒も
- ・ 友達の意見を参考にしながら
- ・ 自分のペースで

自分の考えを伝える + 協力して構想を形にする
【自己理解・表現】 【協働】

5 全体で披露

活動内容【ねらい】

- 完成したスライドお互いに見合う【相互評価、自己肯定感、達成感】



黄色グループ：校内紹介



青グループ：行事紹介



青グループ：給食紹介



赤グループ：1日の紹介

発表時の様子から・・・



「披露した際に達成感を感じている
表情が見られた」 (70%)

【教員事後アンケート】

A vertical bar on the left side of the slide with a gradient from light blue at the top to light orange at the bottom.

生徒の変容

【自己**理解**】 【自己**表現**】

自己理解の変容①

表1「自分ができること(事前)」から
「自分でできた・できるようになった(事後)」の変容

いま自分が
できること

できること・
できるようにな
ったこと

分類	選択肢項目(網羅版)	事前	事後	変化率
表現制作	スライド作成・構成を考える	45%	86%	+41%
表現制作	編集やデザインを工夫する	31%	76%	+45%
思考	自分の考えやアイデアをまとめる	34%	83%	+49%
操作	音声(録音・AI音声)を入れる	17%	93%	+76%
操作	写真や動画を挿入する・撮影する	72%	93%	+21%
操作	文字を打つ・編集する	66%	79%	+13%
協働	友だちと話し合い、協力して決める	41%	86%	+45%

基本的な操作力
から・・・

自分で考えたことを表現できるという意識！
自己理解の深化

自己理解の変容②

分類	選択肢項目(網羅版)	事前	事後	変化率
表現制作	スライド作成・構成を考える	45%	86%	+41%
表現制作	編集やデザインを工夫する	31%	76%	+45%
思考	自分の考えやアイデアをまとめる	34%	83%	+49%
操作	音声(録音・AI音声)を入れる	17%	93%	+76%
操作	写真や動画を挿入する・撮影する	72%	93%	+21%
操作	文字を打つ・編集する	66%	79%	+13%
協働	友だちと話し合い、協力して決める	41%	86%	+45%

- 友だちのアイデアを聞いて「なるほど！」と思った: **86%** (25名)
- アドバイスをもらい、自分の作品に活かすことができた: **69%** (20名)
- 役割分担をしながら一緒に作業できた: **79%** (23名)

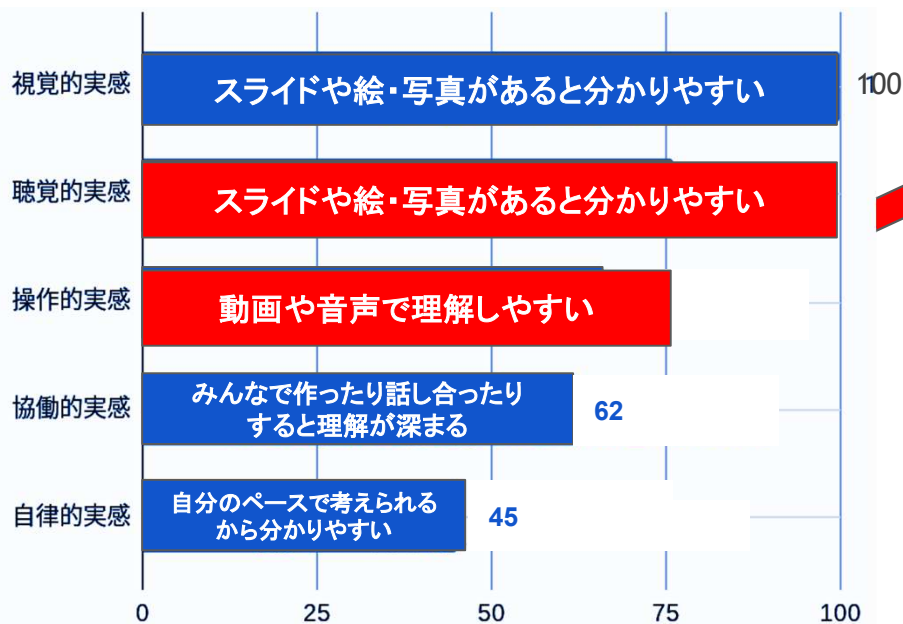
ICTを使って友達と共同することができましたか？



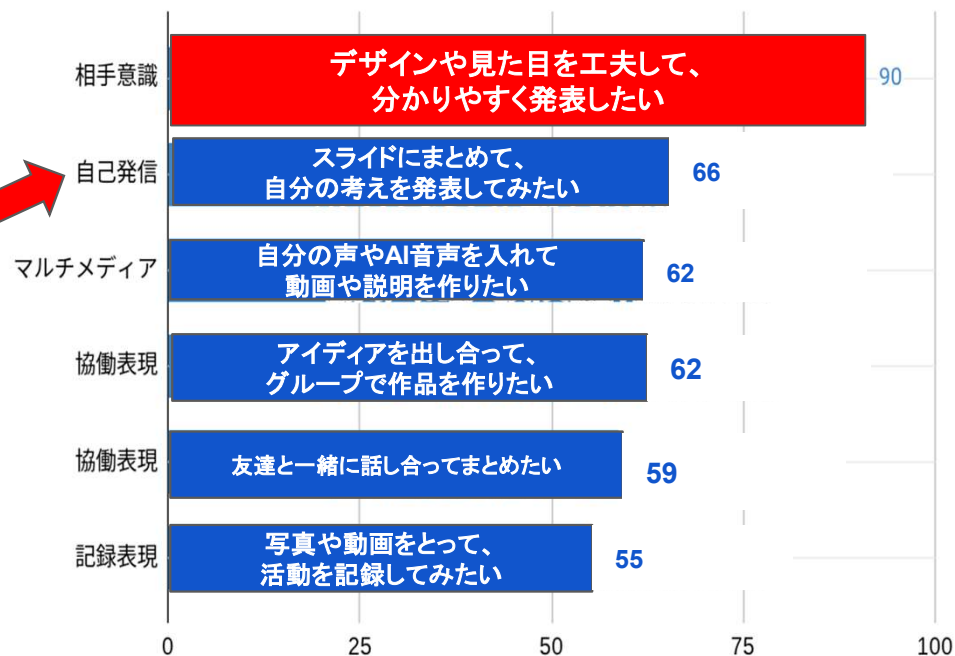
学び合う気持ちの変化

自己表現の変容①

事後Q7.ICTを使うことで、
どのようなことがわかりやすくなったか。



事後Q09.今後やってみたい活動は何？

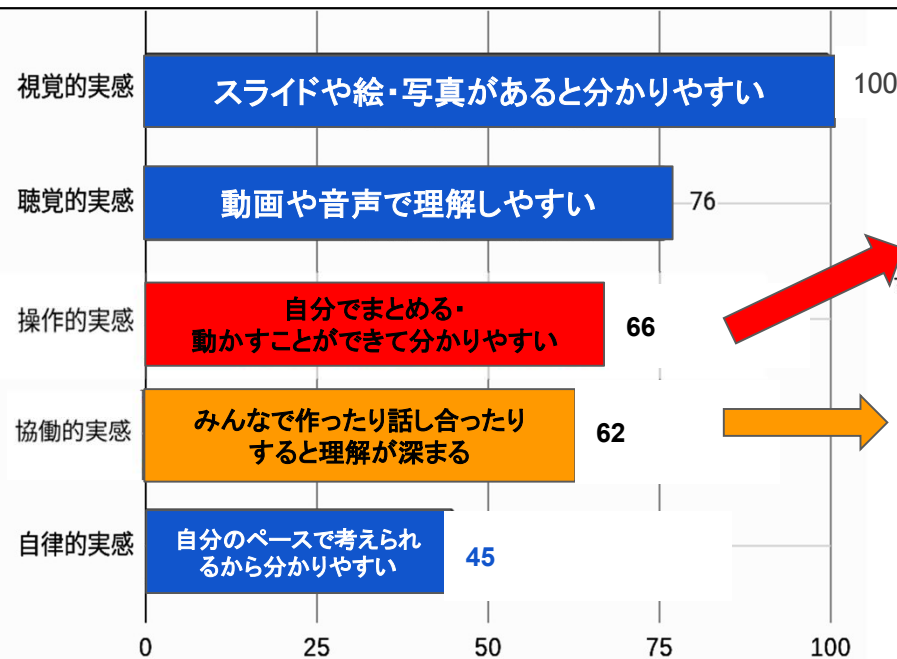


「見て・聞いて」分かる
という実感から...

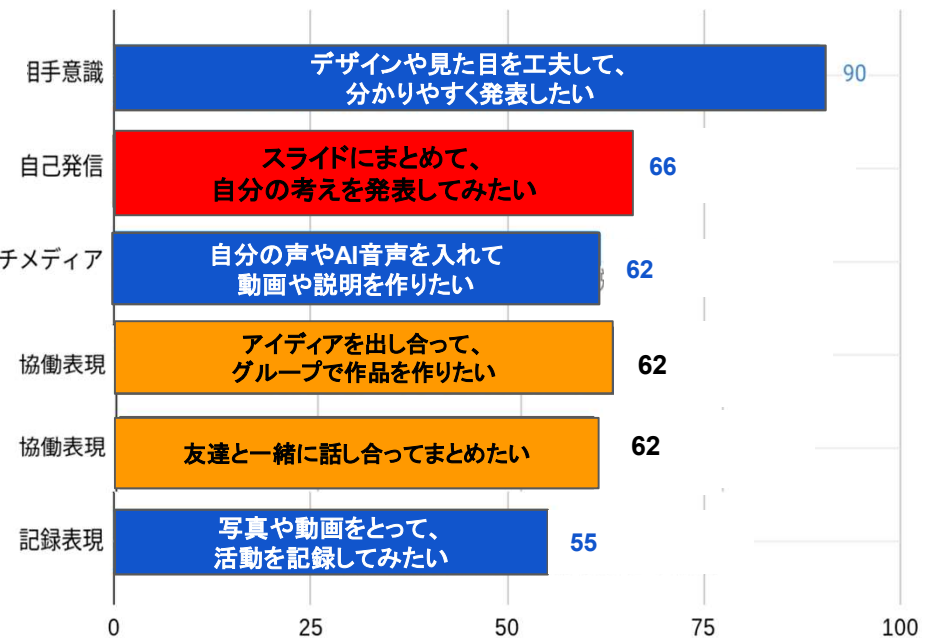
相手意識を踏まえた
自己表現への意欲

自己表現の変容②

事後Q7.ICTを使うことで、
どのようなことがわかりやすくなったか。



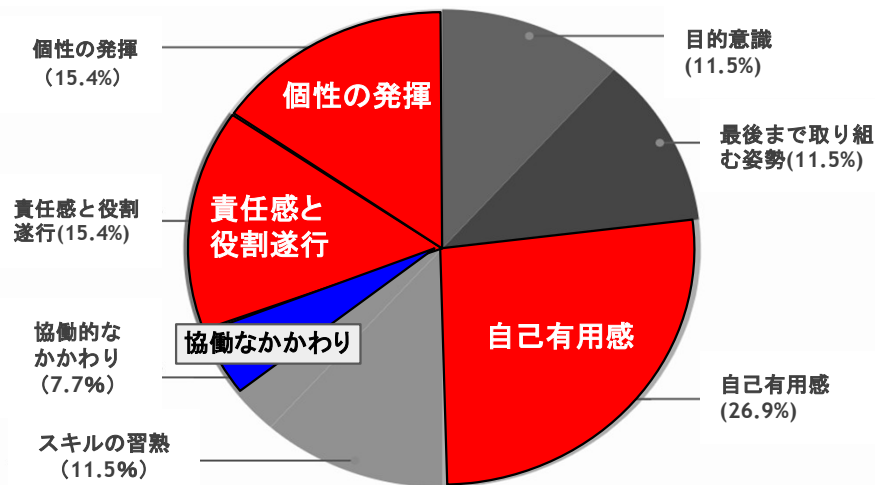
事後Q09.今後やってみたい活動は何は？



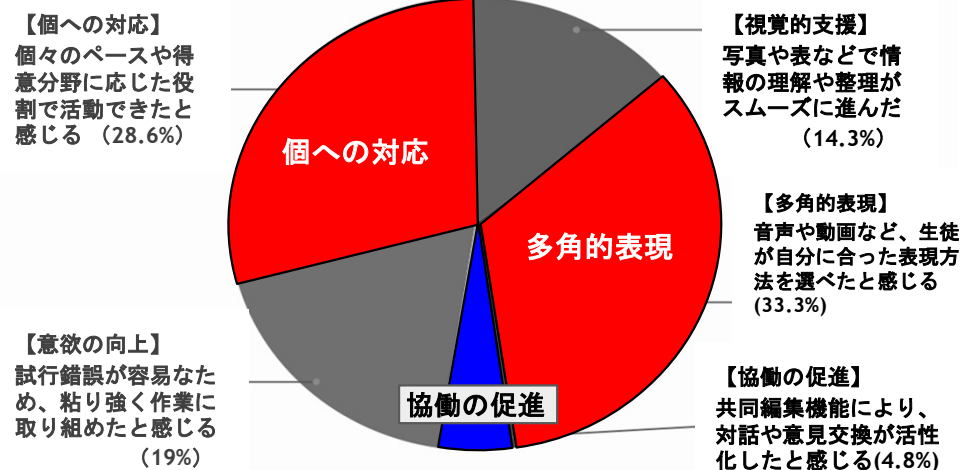
自己表現＋協働表現への意欲！

教員の見取り

活動を通して生徒にどのような変化や成長を実感したか

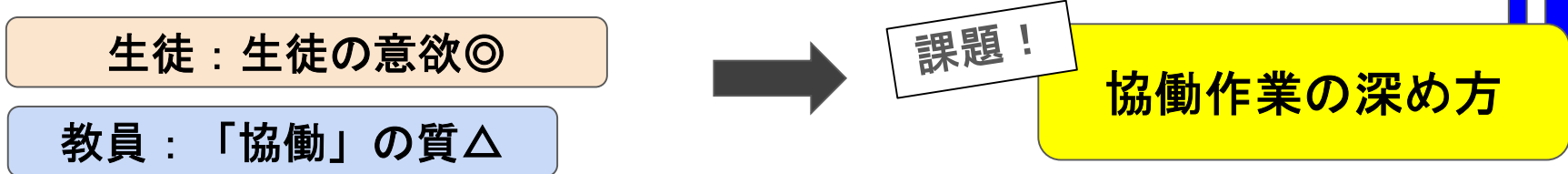


ICTを活用し、生徒の可能性をさらに引き出せる場面とは



◎生徒が**個々のペース**で、**自分にあった表現**を選んでいた。
 【個性の発揮、責任感と役割遂行、自己有用感や自信の向上】

△教員視点から見たときの、**協働的な関わりの弱さ**



3年生の実践内容

『卒業に向けた私の歩み』

教科名

自立

アプリケーション



対象

赤/青/黄
実態別グループ

活動の流れ

- 1 ふきだしくんでアイデア出し
- 2 Googleドキュメントで文章化
- 3 Googleスライドで視覚化

活動内容

①ふきだしくんを使って考えを出す。



②ドキュメントを使って考え、伝えたいことを文章化する。



③テーマに沿った内容をスライドに書き込む。



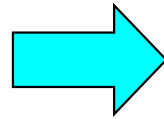
書く内容が思いつかない生徒は
教員と相談し、書き込んだ。

テーマ

- ・1年生のころの私。
- ・2年生でできるようになったこと
- ・3年生でできるようになったこと
- ・今、私が思うこと
- ・これからの目標

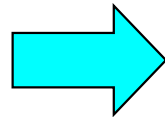
目的

①自分たちの3年間を
しっかり振り返る。



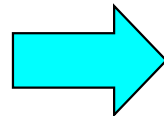
目に見える成長に加えて
心の成長などにも目を向けるようにした。

②自分たちの3年間を
後輩たちに伝える。



入学当時の自分と同じ不安を持った後輩たち
に自分たちの**経験を参考**にしてもらう。

③自分らしさを表現する。



文章の書き方は自由にし、
内容や文書の量は実態に応じて

学年全体の実態

- ・人と関わるのが好きな生徒が多い。
- ・人と関わるのが好きだが、コミュニケーションを取るのが難しい生徒がいる。
- ・自分の思いを表現するのが難しい生徒がいる。
- ・ICTを日頃から活用している生徒は多いが、活用方法、文字の入力方法やスピードなどに差がある。

事例紹介

【生徒の実態】

- ・模写や選択することができる。
- ・発語がなく、思いを表現することが少ない。
- ・ICT機器を活用する授業では教員が代理で操作することが多い。

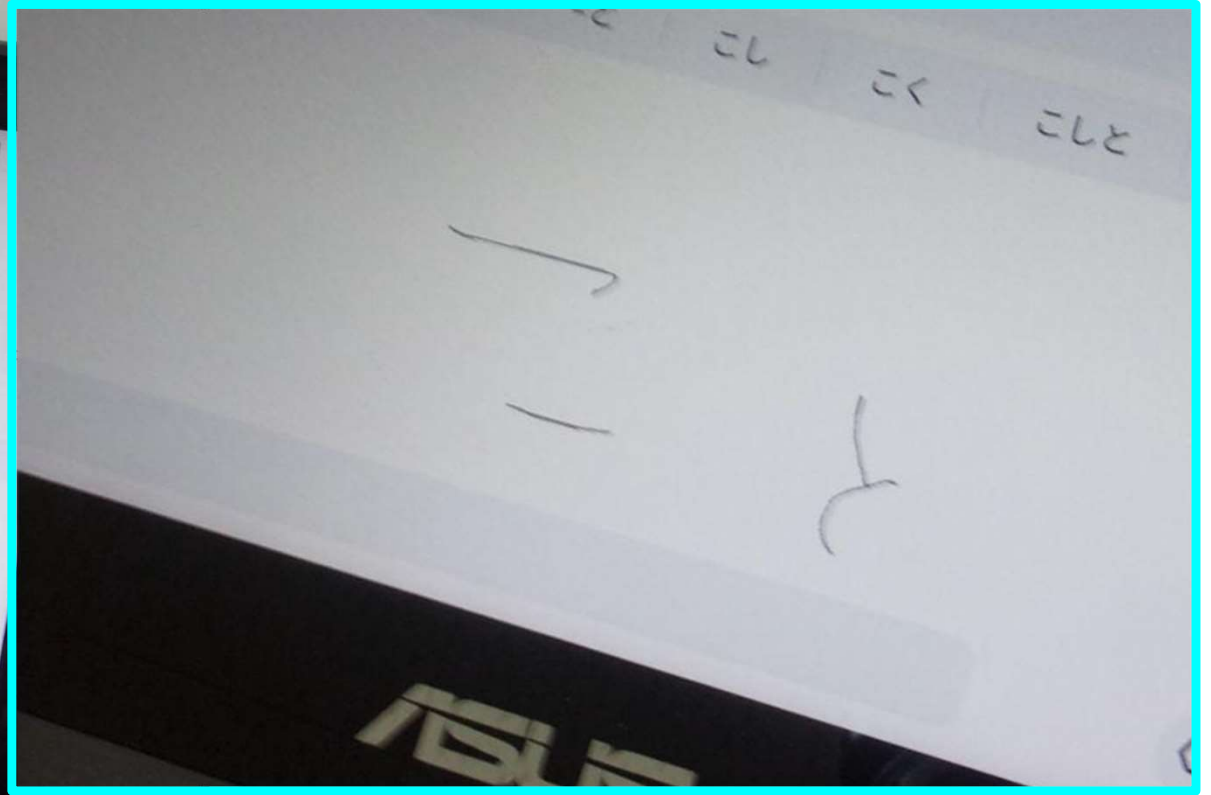
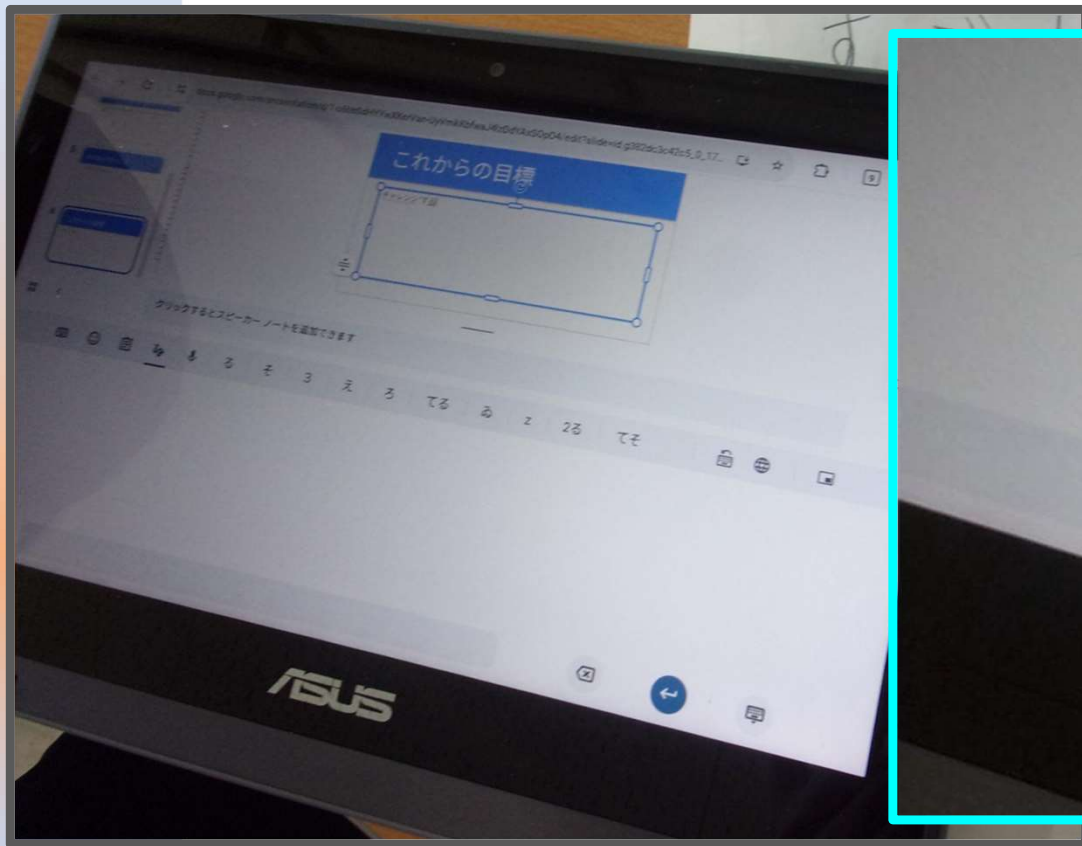
今回の活動は難しい？

タイピングだと押し間違えが多くあったため
最初は、教員が代わりに操作し、スライドを
作成していた。

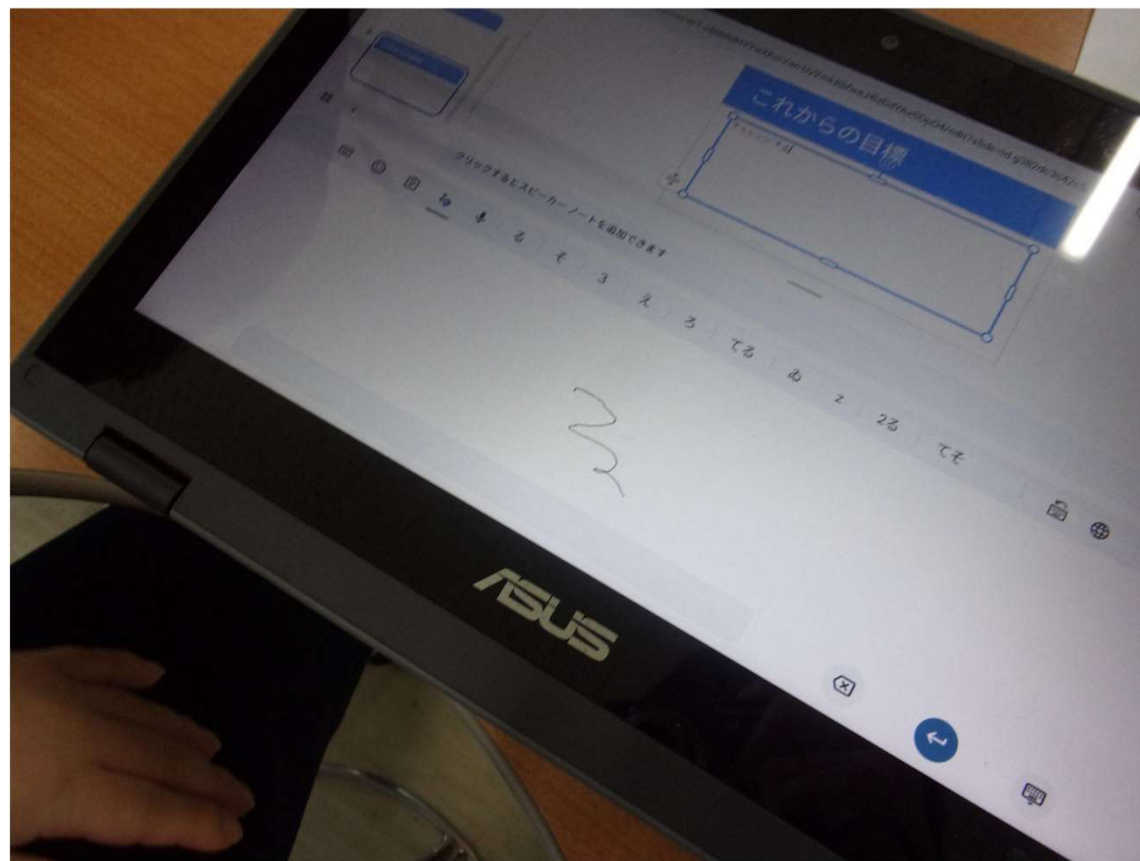


生徒が操作できる
方法はないか？

手書き入力を使用




文字を少し書き間違えてしまった時は
予測変換から選んで入力をした。



生徒の変容

プリント形式の場合

- ・考える。
- ・書く。(一文字ずつ考えて書く)
- ・間違えたら消しゴムを使って消す。
- ・消しきれしていないのに、上から書く。

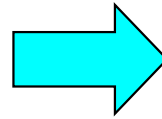


文章を書くの
にハードルが
高い

生徒の変容

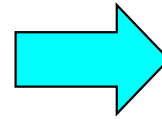
☆入力の場合

書字が苦手な生徒にとっては、
解消されるため書くという
ハードルが低くなる。



意欲的に取り組むことが
できるようになった

実態によっては難しいと
思われていた
ICT機器を活用した授業



一緒に参加できる可能性が
広がった。



高B学部研究の概要

各学年の実践報告

Time Table

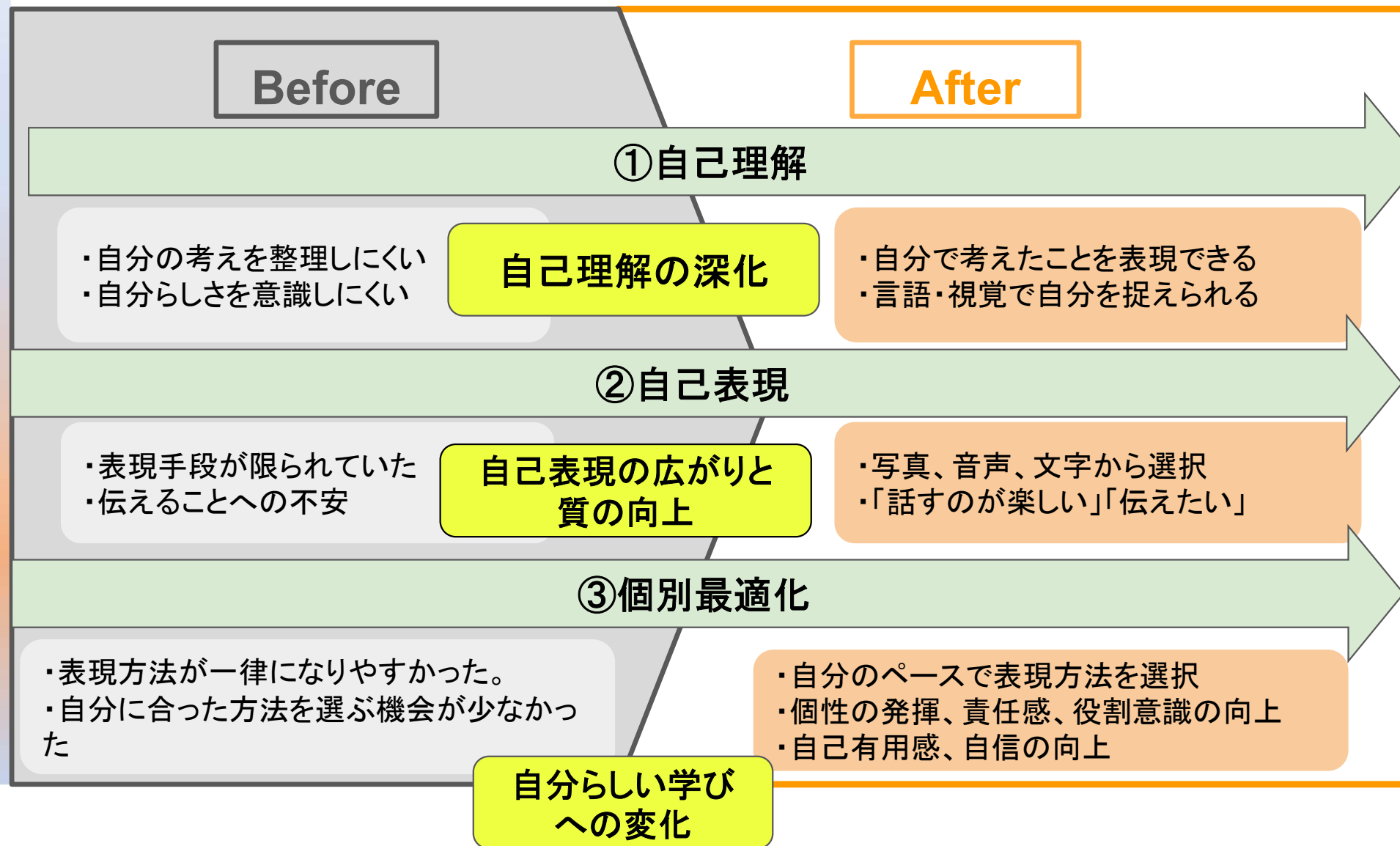
成果と課題

---流れ---

次年度に向けて

まとめ

成果(生徒)



課題(生徒)

- ①発語や言語表出が難しく、
表出のサインを捉えにくい生徒へのICT活用方法の工夫
- ②認知面のハードルにより、
ICT機器を自力で操作することが難しい生徒への支援の在り方
- ③生徒間で表現力や表出量に大きな個人差が見られる
- ④伝えたい内容はあっても、見せ方・整理の仕方・相手を意識した表現
が難しい場面がある
- ⑤共同編集において、操作ルールや役割理解が不十分のため、
友だちの作成物を意図せず変更してしまうといった場面が見られた

成果(教員)

ICT観の転換	生徒理解の深化	組織的な学びの土台形成
<ul style="list-style-type: none">・「操作習得」から生徒の思考、表現を支える手段へ・ICT導入への心理的ハードルの低下・「まず使ってみる」姿勢の広がり	<ul style="list-style-type: none">・表出が苦手な生徒の考えや思いを把握できる場面・多様な表出(画像、デザイン、音声等)を評価・個別最適化が自己有用感につながることを実感	<ul style="list-style-type: none">・協働の質を高める必要性を共有・学部全体で成果と課題を言語化・継続的、組織的に取り組む意義を確認
<p>ICT活用を通して、教員の視点が「操作」から「学びの質」へと広がった</p>		

課題(教員)

①ICT活用のスタートラインに差がある

- ・ ICT機器の操作に慣れていない教員への**継続的なフォローアップ体制が十分ではなかった。**
- ・ 「まず何から始めればよいのか」が分からず、活用に踏み出せないケースが見られた。

②選択肢の多さが、逆にハードルになっている

- ・ 多様なアプリツールがある一方で、**目的に応じた使い分けの指針が共有されていなかった。**（例 Googleスライドなのかcanvaなのか）
- ・ 結果として、使う人は使う、使わない人は使わないという**二極化**が進んだ。

③学年・個人に依存した運用

- ・ ICTに興味、関心が高い教員は、自主的に学び、スキルを高めていく
- ・ 学ぶ機会が確保されていない教員は活用が停滞したままになりやすい
- ・ **教員間のスキル差が広がる構造**が生じていた



高B学部研究の概要

各学年の実践報告

見えてきた課題

Time Table

---流れ---

次年度に向けて

まとめ

次年度に向けて

1. 学部としての取組の深化

- ・ICT活用を「個人の工夫」から「学部の共通実践」へ
- ・目的別に整理した基本ツール・基本手順の共有
- ・学年を越えた実践共有・フォロー体制の構築

2. 教員の学びを支える環境づくり

- ・ICTに不慣れな教員も安心して参加できる研修の工夫
- ・ミニ研修・実践紹介など、継続的に学べる機会の確保

3. 生徒の表現の場を広げる

- ・表現方法を限定しない学習活動の継続(話す・書く・写真・音声・ICT・AI等)
- ・発表が苦手な生徒への段階的な支援の充実
- ・自分のペースで表現できる環境づくり(個別最適な学びと、協働的な学びの一体的充実)

4. 3年間を見通した系統的な学び

- ・1年: 自分を知る・伝えてみる
 - ・2年: 仲間と伝え合い、協働する
 - ・3年: 社会・将来へ発信する
- 成長を振り返り、次につなげる学習の積み重ね



高B学部研究の概要

各学年の実践報告

Time Table

---流れ---

見えてきた課題

次年度に向けて

まとめ

まとめ

ICTは、できないことを補う道具ではない。
生徒の「伝えたい」を引き出すための道具である。

- ・Chromebookを活用し、
画像や動画、文章で考えや学びを整理し、発表する活動に取り組んだ
- ・その結果、生徒は、
自分のペースで安心して自己表現し、
互いの発表から学び合う姿が見られるようになった。
- ・一方で、ICTの活用が**個人**の取組に留まりやすい
という課題も明らかになった
- ・今後は、学部、学校全体で**共有**、**継続**できる**組織的な取組**が求められる。



有馬分教室 2年目実践報告

テーマ

Chromebookを活用しよう

Time Table

---流れ---

- 現状の課題について
- 具体的な取り組みについて
- まとめ

研究の背景（Why①：現状の課題）

- ▶ 有馬分教室の生徒はChromebookの使用について関心が高く、調べ学習などは積極的にChromebookを使用している。また、授業でもChromebookを使用することが多い。実習の壮行会や反省会などは用意されたテンプレートを基にスライドを使い発表することができる。他にも、授業の中でカフトを使ったクイズ問題など行くと、生徒たちは積極的に参加し、楽しんでいる様子が見られる。
- ▶ しかし、生徒によって実態差があり、生徒の中にはローマ字表を見ながら入力している生徒もおり、文字の入力をする際には教師の支援を受けながら取り組んでいる。
- ▶ 文字入力には実態差があるが、文字入力を伴わない活動は一斉で行うことができることが多く、繰り返し行うことで慣れていく様子が見られる。

研究目的と位置づけ

(Why②)：2年目のねらい)

▶ **【学部全体テーマ】**

「Chromebookを実践的に

使えるようになる」

▶ **【2年目のねらい】**

「グーグルレンズを使えるようになる」

実践全体の流れ（How①：年間の計画）

- 昨年度の振り返り … 4月、5月
- 学部研究の検討、実践 … 6月～
- まとめ … 1月

実践全体の流れ（How①：年間の計画）

- ▶ 5月 今年度の研究について
昨年度の振り返り（スライドを利用した授業について）
- ▶ 6月 対象学年の決定
- ▶ 7月 グーグルレンズの使い方について
- ▶ 8月 ICT活用学習会への参加
- ▶ 9月 対象学年の実態把握のためのアンケート実施
- ▶ 10月 Chromebookの活用状況について確認
グーグルレンズを使用した授業について
- ▶ 11月 学部全体でアンケート実施
- ▶ 12月 教員の活用状況についてアンケート実施
- ▶ 1月 振り返りのアンケート実施

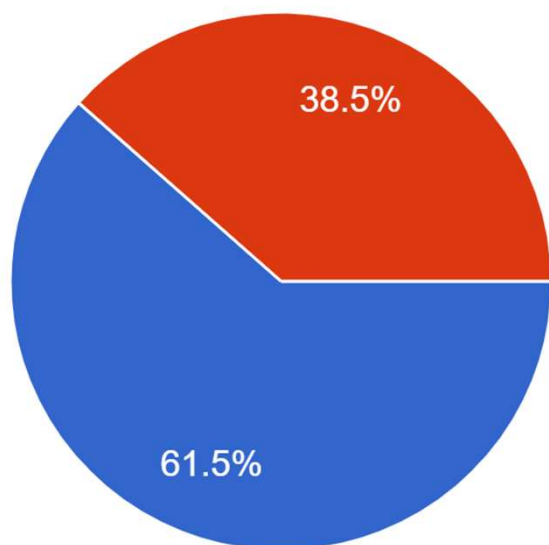
授業の詳細

(How②) : 具体的取り組み)

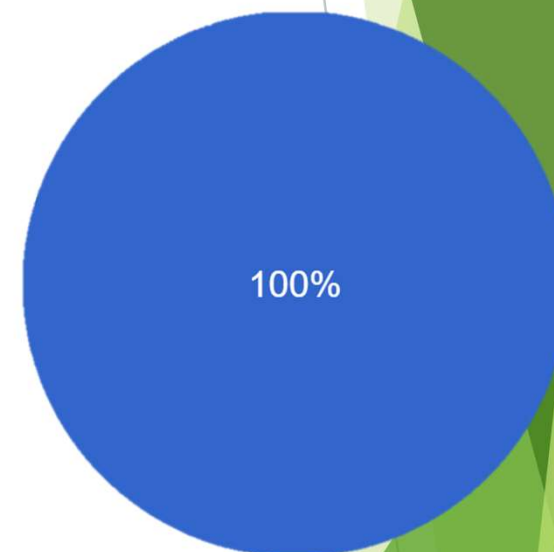
教科	グーグルレンズを使った内容
理科	<ul style="list-style-type: none">・ 撮影した植物について調べる
音楽	<ul style="list-style-type: none">・ 提示された画像の楽器を検索する・ 音楽記号について調べる
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 読み方が分からない漢字を調べる・ 検索サイトと並行して調べもので使う

成果 (Before → After)

入学前にグーグルレンズ使ったことがありますか？



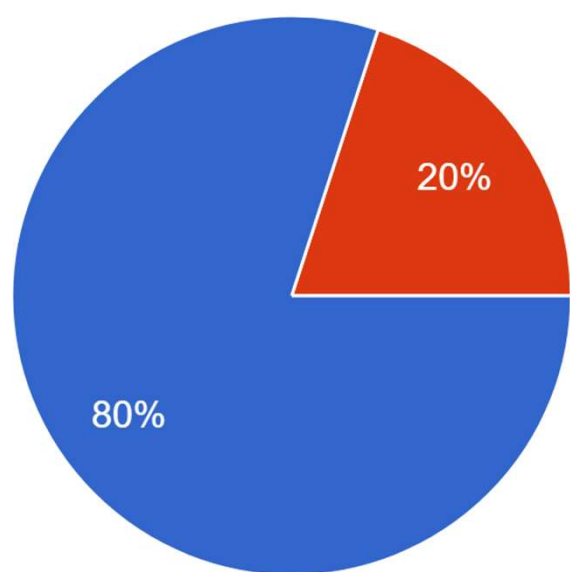
授業や休み時間にグーグルレンズ使ったことがありますか？



- ある
- ない

成果（Before → After）

グーグルレンズを使用してみてどう感じましたか？

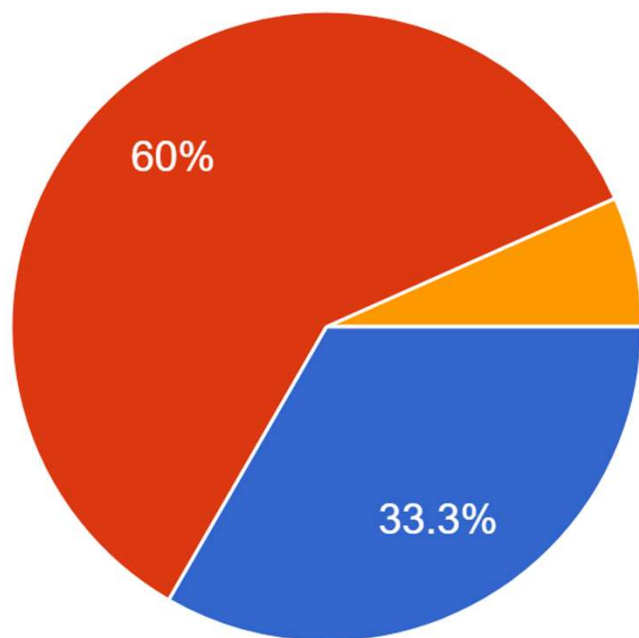


- 簡単だった
- 難しかった

最初はグーグルレンズを使う際、使い方が分からず、支援を受けながら取り組む生徒も多かったが、繰り返し授業で使う中で生徒一人で使えるようになった。

成果（Before → After）

これからも授業でグーグルレンズを使う機会があれば使ってみてみたいと思いますか。



- そう思う
- まあそう思う
- あまり思わない
- 思わない

課題と次年度に向けて（Next Step）

- ▶ グーグルレンズを使うことができる生徒が増え、生徒自身も使えると便利だと感じていることがわかった。今後も調べる際の一つのツールとしてグーグルレンズを使えるようにしていきたい。
- ▶ Chromebookの活用という点では、生徒によって実態差があるので、授業等を通して全員がスキルアップしていけるようにしていく必要がある。特に入力に関しては、ローマ字表を見ながら入力している生徒もいるので、全員がローマ字入力できるようになる必要がある。

まとめ (Key Message)

- ▶ 今回、Chromebookを実践的に活用していくという点で、グーグルレンズを使えるように授業等で使用機会を設定した。最初は調べることに時間がかかっていた生徒もいたが、機会が増えるごとに自分でできるようになっていった。文字入力がないという点で使用に関するハードルが低かったことも関係していると考えられる。
- ▶ 他学年でも授業の中で使う機会を設定したが、他学年も同様の様子であった。文字入力を伴わない活動は生徒にとって取り組みやすい活動だと感じた。グーグルレンズについてはスマートフォンでも同様の機能があるので、使えるようになると今後、生活の中でも調べものができると考えられる。
- ▶ 今後、ローマ字入力等基礎的な力を付けつつ、生徒自身がChromebookを活用できるよう、指導する教員側もアプリや機能について知っていく必要があると感じた。



相模向陽館分教室 2年目実践報告

**将来的に活用できる力を育てる
～ニーズに合わせて～**

Time Table

---流れ---

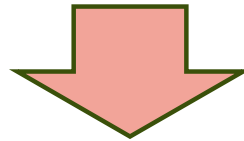
- 研究の背景
- 2年目のねらい
- 向陽館分教室の研究の流れ
- 学年ごとの取り組み（2年生・3年生）
- まとめ 来年度に向けて

研究の背景

(Why①：現状の課題)

昨年度

- ▶ まずは教員がChromebookを使用してみる
- ▶ スライドやクラスルームなど活用できるところから挑戦



- ▶ Chromebookをもっと活用できる場面がある
アプリ、情報以外での授業 など
- ▶ 将来的に活用できる力を伸ばしたい

研究目的と位置づけ

(Why②)：2年目のねらい)

▶【学部全体テーマ】

「将来的に活用できる力を育てる

～ニーズに合わせて～」

▶【2年目のねらい】

★生徒の実態に合った、ニーズを整理

★将来的に活用できる力を育てる

実践全体の流れ

(How①：年間の構造)

1学期

- ・ 各学年実態把握
- ・ ニーズの整理
- ・ 具体的な活用方法の検討

2学期

- ・ 各学年授業実践
- ・ 生徒へのアンケート実施
- ・ 振り返り、学部全体での共有

3学期

- ・ 各学年授業実践
- ・ 学部プレ発表

具体的な実践の計画

(How② : 1学期の様子と伸ばしたい力)

PC 1年生

1学期の様子

ローマ字の使用◎
WordやPPの操作を
学習する必要がある

伸ばしたい力

- ・経路検索
- ・Word、PPの作成

2年生

スライドなど基本的な
操作はできるよう
になった

- ・タイピング
- ・アプリの活用

3年生

タイピング、操作面の
スキルにかなり差が
ある

- ・タイピング
- ・ショートカットキー

2年生

授業(支援)の詳細 (How③)：具体的取り組み



ポスター制作【美術】

Canvaを学習

★ポスターサイズの
選択や画像のアップ
ロード方法など基本
操作◎

操作してみる

★色々な機能を積極的
に操作

ポスター作成

★自由にたのしく作成
★活用の幅が広がった

AI生成にも
チャレンジ!

作成までの練習・操作時間を
ゆとりをもって確保

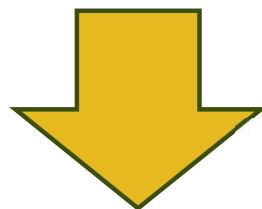
成果（Before → After）

ポスター制作【美術】

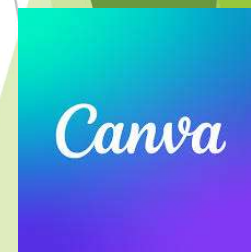


課題と次年度に向けて (Next Step)

▶ 教員側のアプリ内の様々な機能の把握が課題



アプリの研修会



参考書の活用



3年生

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)

タイピング【課題(毎日10分間)】

五十音練習、タイム計測

- ★五十音を覚えた
- ★ローマ字表なしで◎

濁音や拗音の練習、タイム計測

- ★ローマ字表なしで
単語を打つ◎

タイピングサイト活用

- ★スピードUP
- ★タイピングに慣れる

段階的に行った
毎日継続して行った

成果（Before → After）

タイピング【課題（毎日10分間）】

★ローマ字表を見ずに打てるように

★50音のタイムが4分⇒2分に！

五十音の最初の
アルファベットが
出てくるように
なった

Chromebookを使用する様々な授業で
周りのペースに乗れるようになった！

3年生

授業(支援)の詳細 (How②：具体的取り組み)



ショートカットキー【情報】

ショートカットキーの学習

問題形式で練習

授業内で活用

★ショートカット
キーの操作方法
を知った






★たのしく練習
★便利さ◎

★情報の授業内で
単元外でも活用

ゲーム感覚で楽しく練習

やったことのないことでも
正答例をつけてわかりやすく





①

コピー( )とペースト( )を
使って桜を4枚  にはりつけよう





--	--	--	--

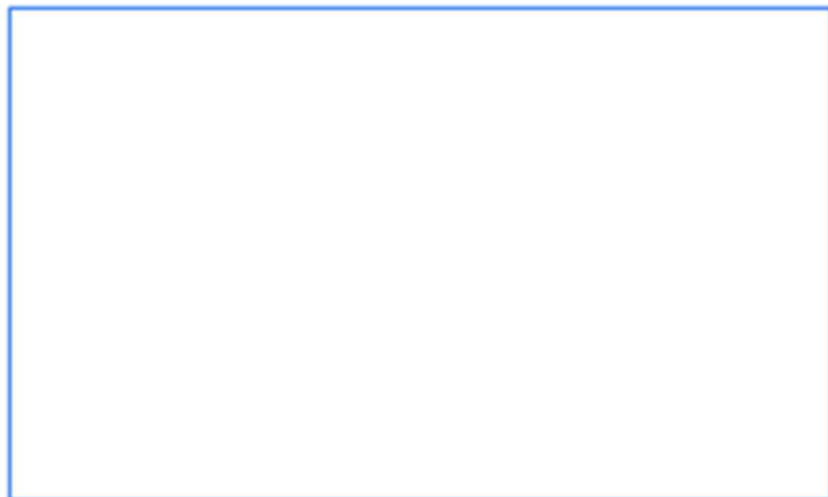
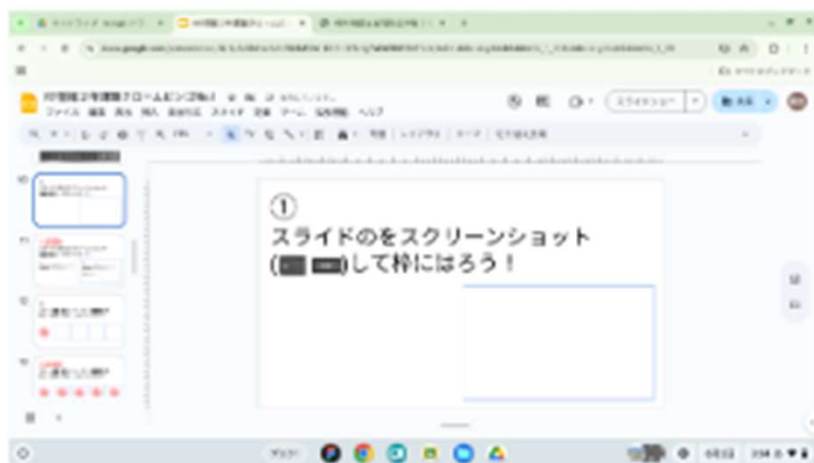
せいとうれい
① 正答例

コピー( )とペースト( )を
使って桜を 4 枚 にはりつけよう





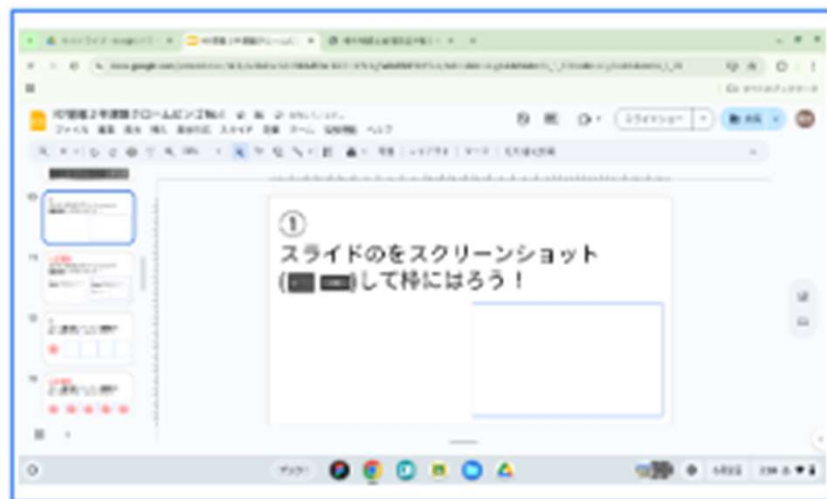
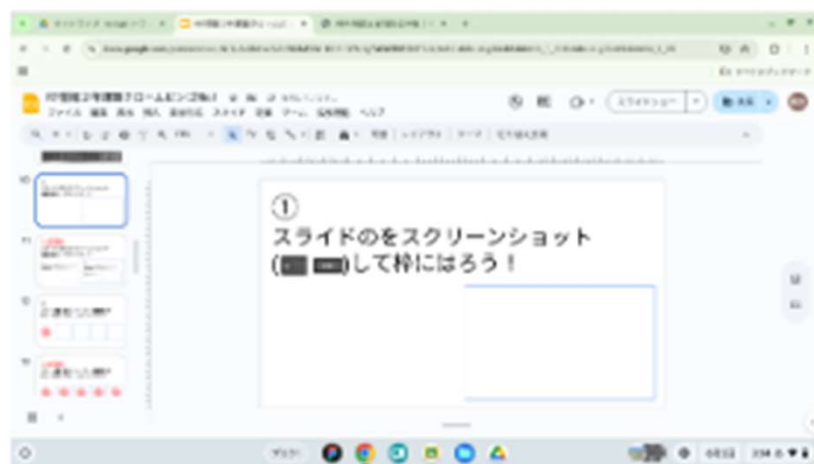
②

スライドのをスクリーンショット
( )して枠にはろう！



② 正答例

スライドのをスクリーンショット
( )して枠にはろう！



成果（Before → After）

ショートカットキー【情報】

★ショートカットキー3つ以上知っている

8割

★たまに使用している、あまり使用しない

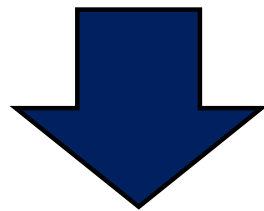
4割程度

ショートカットキーのことは**知ることができた!**
ただ、実際に「覚えて使えている」までは
いっていない...



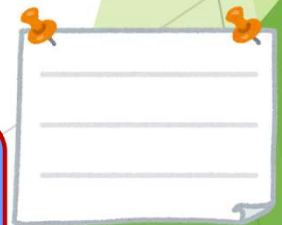
課題と次年度に向けて (Next Step)

- ▶ ショートカットキーを使用しないと忘れてしまう
- ▶ きかなければ分からないのでスムーズな使用ができない



教科横断的に指導をする

すぐに確認できる環境設定を



まとめ (Key Message)

教員のスキルアップと

教科横断的な活用・指導が必要



教員の
スキルアップ

- ・使用するアプリの研修
- ・参考書の活用



生徒の
スキルアップ

- ・環境を整える
- ・継続的に取り組む